

コープ災害ボランティア ネットワークニュース

発行2013年12月 第69号
東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティア
ネットワーク幹事会
TEL03-3383-7800

東京都・あきる野市合同総合防災訓練に参加しました

11月23日(土・祝)東京都とあきる野市の総合防災訓練が、秋留台公園とその周辺で一般見学者を含め約1万名が参加して行われました。CO 災ボ幹事・メンバー他、生協関係者からは約50名が参加しました。

東京都生協連のテントブース
(秋留台公園芝生広場)



災害対策本部を設置。災害時の無線通信の訓練を行いました。約450名がブースに立ち寄り、132名が防災パソコンゲームを体験しました。

災害ボランティア活動訓練に、CO 災ボメンバーが参加しました。



協定にもとづく応急生活物資の緊急輸送・供給訓練を、東都生協とコープみらいが協力して行いました。



コープみらい昭島センターから、輸送担当生協の東都生協とコープみらいのトラックで緊急物資を秋川体育館に搬入し東京都に引き渡す訓練でした。



医療救護活動訓練では、八王子保健生協も参加して、トリアージ訓練や担架搬送訓練などが行われました。

その他、様々な展示・体験や炊き出し訓練、土砂災害からの救出訓練や、ヘリコプターを使用した広域訓練などが行われました。



～参加者の感想から～

物資仕分け訓練に参加し、あのやり方なら「私でもできる!」と思いました。役に立ちそうです。生協として取り組めるのはありがたいです。(災害ボランティア参加者)

クイズが楽しかった。災害の時はあわててしまうと思うので確認できてよかった。(ゲーム参加者)

これだけのことをやっていると知り、安心して暮らせます。(パネル展示見学者)

避難所について考える

12月7日（土）に行われた第3回は、講師から避難所についてお話を聞き、その後、災害対応カードゲーム「クロスロード」を参考にした、ワークショップの形式ですすめました。大きな地震が発生した後を想定した出題に、被災者の立場に立って、限られた情報と時間の中で、直感的に自分で判断し、なぜそう考えたのかを話します。他の人の意見を聞き、さらによい案をグループで考えあいました。受身の講座ではなく、自ら考えながら「自分たちにできること」の気づきを学びました。



講師は東京災害ボランティアネットワークの福田信章さん

避難所はどんな人が避難してくるか？ 大きな悲しみや苦しみ、また怒りや憤りを持ちながら集まってくる。高齢者・子ども・障がい者・外国人・けが人など様々な事情を持った人々が集まってくる。多くの場合、避難所は快適な場所とはなりません。避難所の運営に必要な「避難所運営会議」の設置と進捗状況は区や市により様々です。会議メンバーの中に、子育て世代や、介護世帯、障がい当事者などの参画が重要です。（講師）

【クロスロードプログラムの出題の一例】

発災直後の避難所（小学校）で、自主防災組織（町会など）の役員と教員が言い争いをしています。二人の意見はもっともですが、あなたなら **A** **B** どちらに賛同しますか？

A 『部屋割りを決めていてもこれだけ入れない人がいるんだから、まずは避難してきた人を中心にしないと！』（自主防災組織の役員）

B 『これから避難してくる地区の方々もいるはず。まだ救助や初期消火をされていて避難できていないだけかもしれない。早いもの勝ちにするわけにはいかないですよ！』（教員）

正解はないが、現実には **B** は難しい。阪神淡路大震災の時には約4千人が小学校に避難してきた。できれば自宅が「全壊」以外は避難所に行かない方がよい。（講師）



～受講者アンケートより～

避難所について考えさせられた。自分の地域の避難所がどうなっているかを調べてみたい。家族や地域で話し合いたい。意外に意見が分かれることを実感した。即決断することが難しかった。考えが違う人への配慮に気づいた。災害が発生する前に考えておくことが大切。

東京での被災地支援

親子で集まれ～！わいわい！広場!!

回を重ねるごとに、スタッフとお母さんとの交流が進んできています。いろいろな悩みの相談も、輪になって話し合っている場面も見られます。参加者の声かけで新しい親子の参加もありました。お母さんと離れて遊べるようになったり、お友達とのささいなけんかも減って落ち着いて遊べるようになってきたりと、子どもたちの成長を見ることができてうれしいというスタッフの声も聞かれます。12月はクリスマスのミニケーキを子どもたちと一緒に作りました。被災地の新聞の閲覧に加えて、中野区報・社協からのお知らせや、コープみらい・東都生協・パルシステム東京の情報紙も持参して情報提供しています。



親子で集まれ～！わいわい！広場!!参加者		
	参加親子 (子ども)	CO 災ボ ボランティア
10月	2組 (4名)	4名
11月	10組(10名)	5名
12月	5組 (7名)	5名

大島土砂災害被災者支援活動に東京の生協からも参加しています

大島への災害支援活動は、東京の生協が力を合わせて継続し、12月21日まで途切れることなくつなぎました。延べ50名を超えるボランティアが、船で大島入りしました。



11月26日、東京都生協連伊野瀬会長と東災ボ福田事務局長が川島大島町長と面会して、弔意を伝えお見舞金を手渡し、災害ボランティア支援の取り組み状況を説明しました。

「床下に潜って掘り出した土砂は、家1軒でダンプ何台分もありました。高齢者世帯が多く、住人だけではとても担えない作業です。まさにボランティアでなければできない作業だと思いました。」



「12月に入り、土砂出しの要請は少なくなっています。被災者の集う交流の場(カフェ)が、毎週木曜日に開催されています。「あいべ」(大島の方言で「いっしょに」の意味)と名づけられ、足湯やマッサージなどのサービスがあるそうです。被災者への心のケアと復興支援の両方を行っていく状況です。」(ボランティア報告より)